

中学生で生成AIを利用している子の特性

○水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)

小中学生が安心、安全にICTを活用する
GIGAスクール構想の促進と課題の洗い出し

回数	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目
時期	2018年11月	2019年11月	2020年11月	2021年11月	2022年11月	2023年11月	2024年11月
サンプル数	500	1000	1100	500	600	600	1300
方式	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置	訪問留置
対象	関東	全国	全国	関東	関東	関東	全国

調査時期	2024.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	全国 小中学生とその親
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・地域・都市規模で割付
回答数数	1,300組

目的

20241226文科省より生成AIの活用ガイドライン2.0が公表される
年齢・個人の状況に応じ活用することが明記



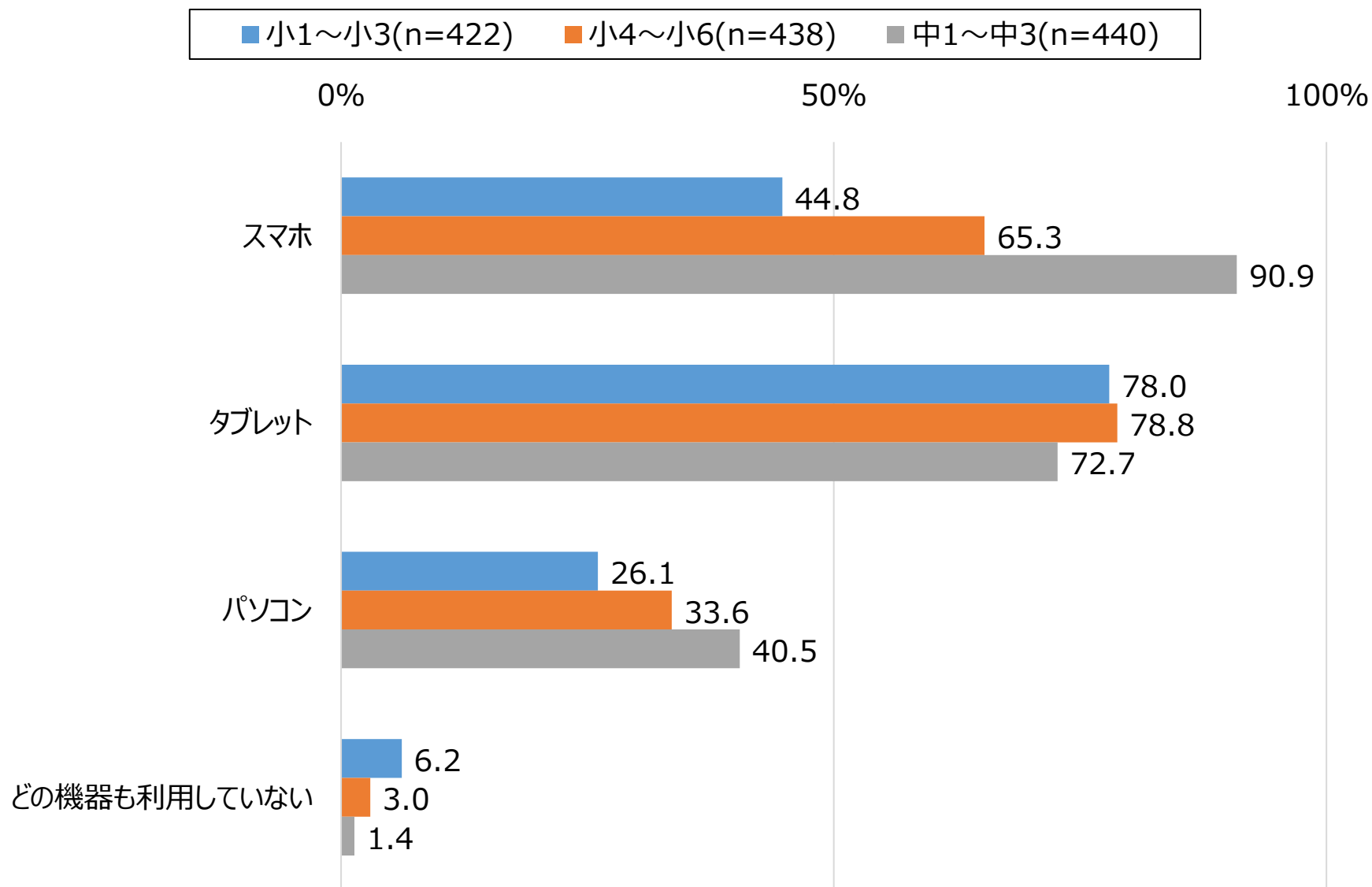
中学生で生成AIを利用している子の特性

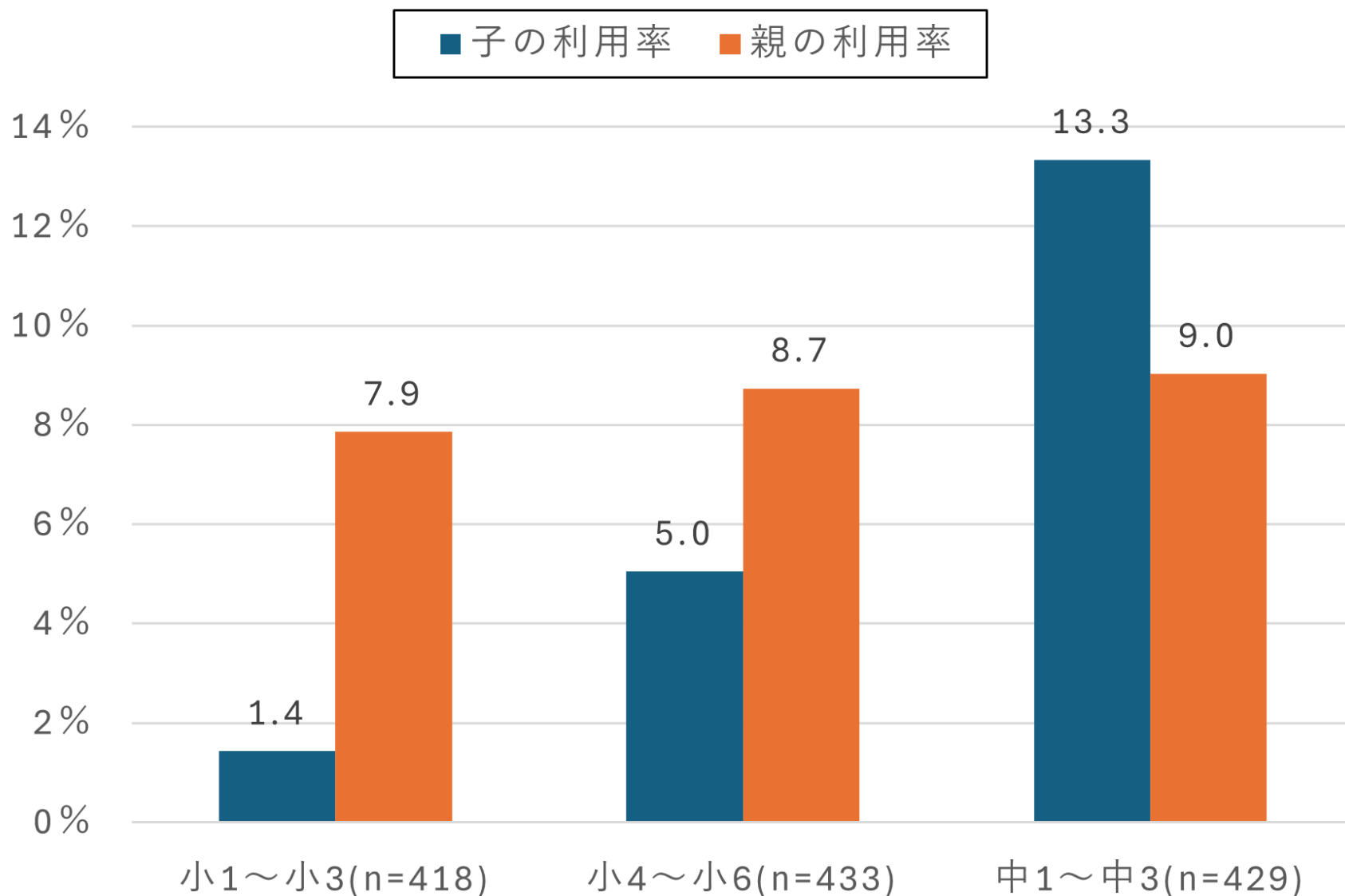
調査概要

調査時期	2024.11
調査方法	訪問留置法
調査対象	全国 小中学生の親子
標本抽出方法	QUOTA SAMPLING 性別・学年・地域・ 都市規模で割付
回答数	1300

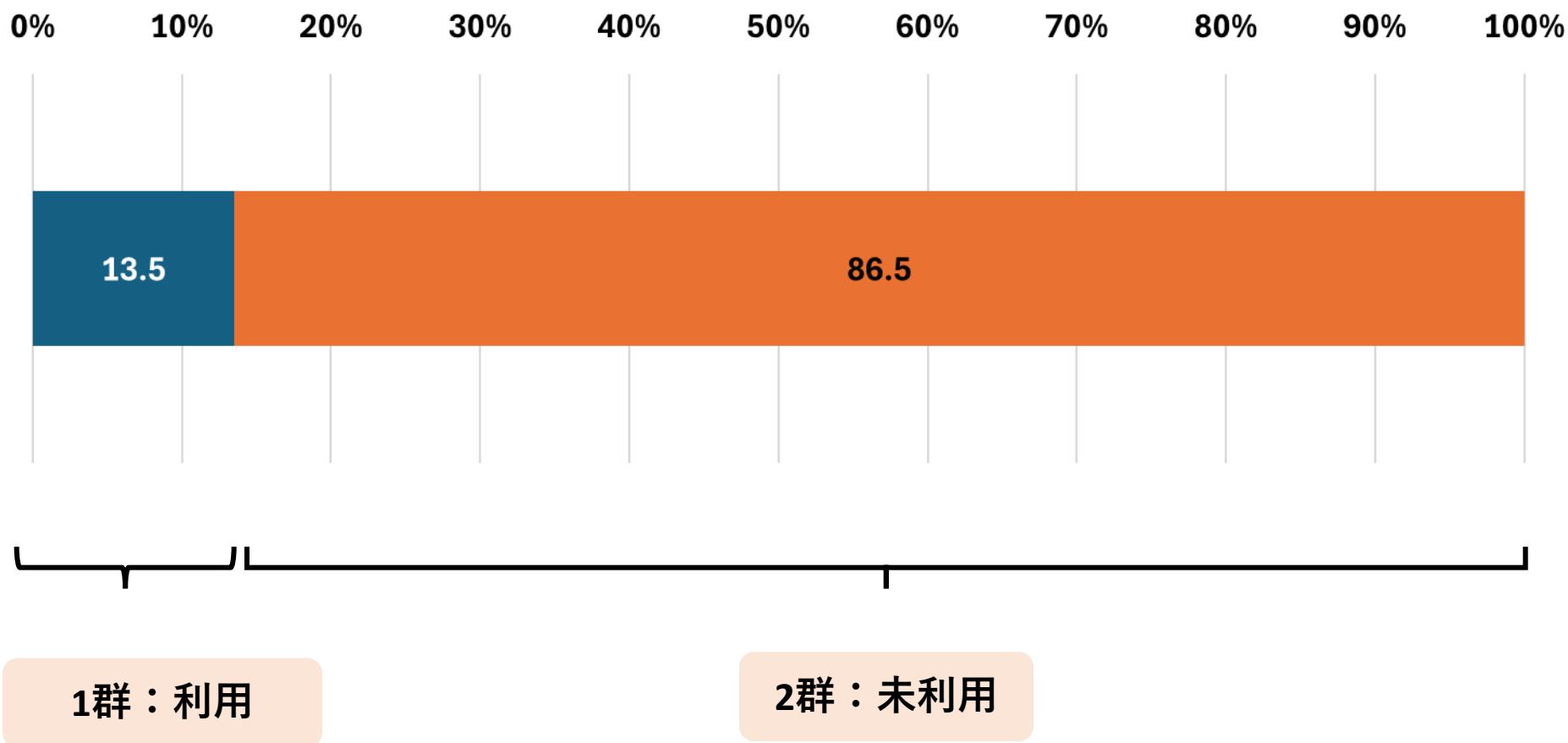
分析方法

数量化理論第Ⅱ類





中学生の中で生成AIを利用している人は13.5%



■ 親の属性・居住

都市規模

学歴

■ 親のICT利活用

インターネット
利用時間

生成AIの利用

■ 学校関連

ICT授業頻度

学校の成績

■ 子のICT関連

発展パソコン
スキル応用スマホス
キル情報活用実践
力ネット利用時
間（学習外）ネット利用時
間（学習）サイト・動画
で調べもの

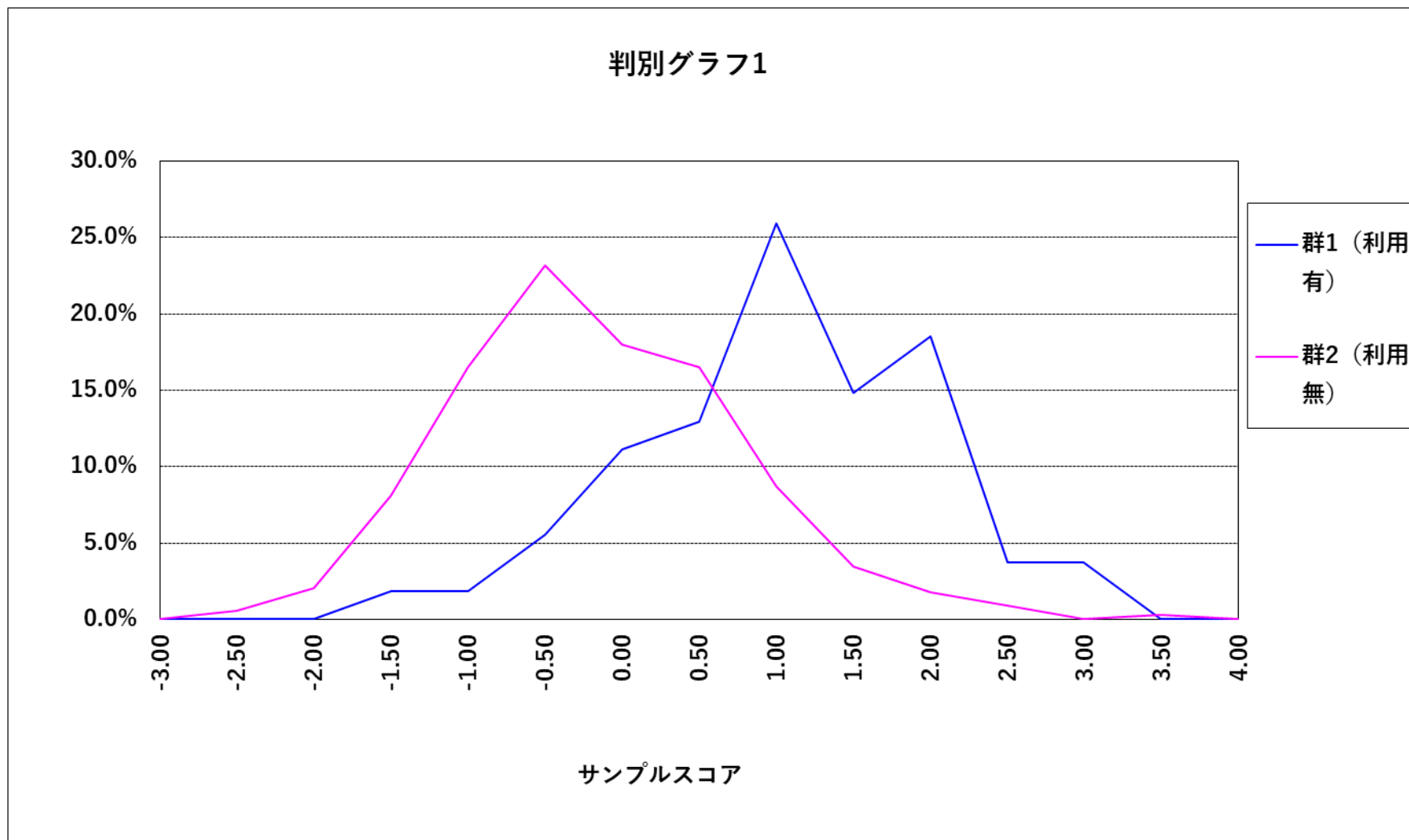
■ 子の属性

性別

新しいもの好
き

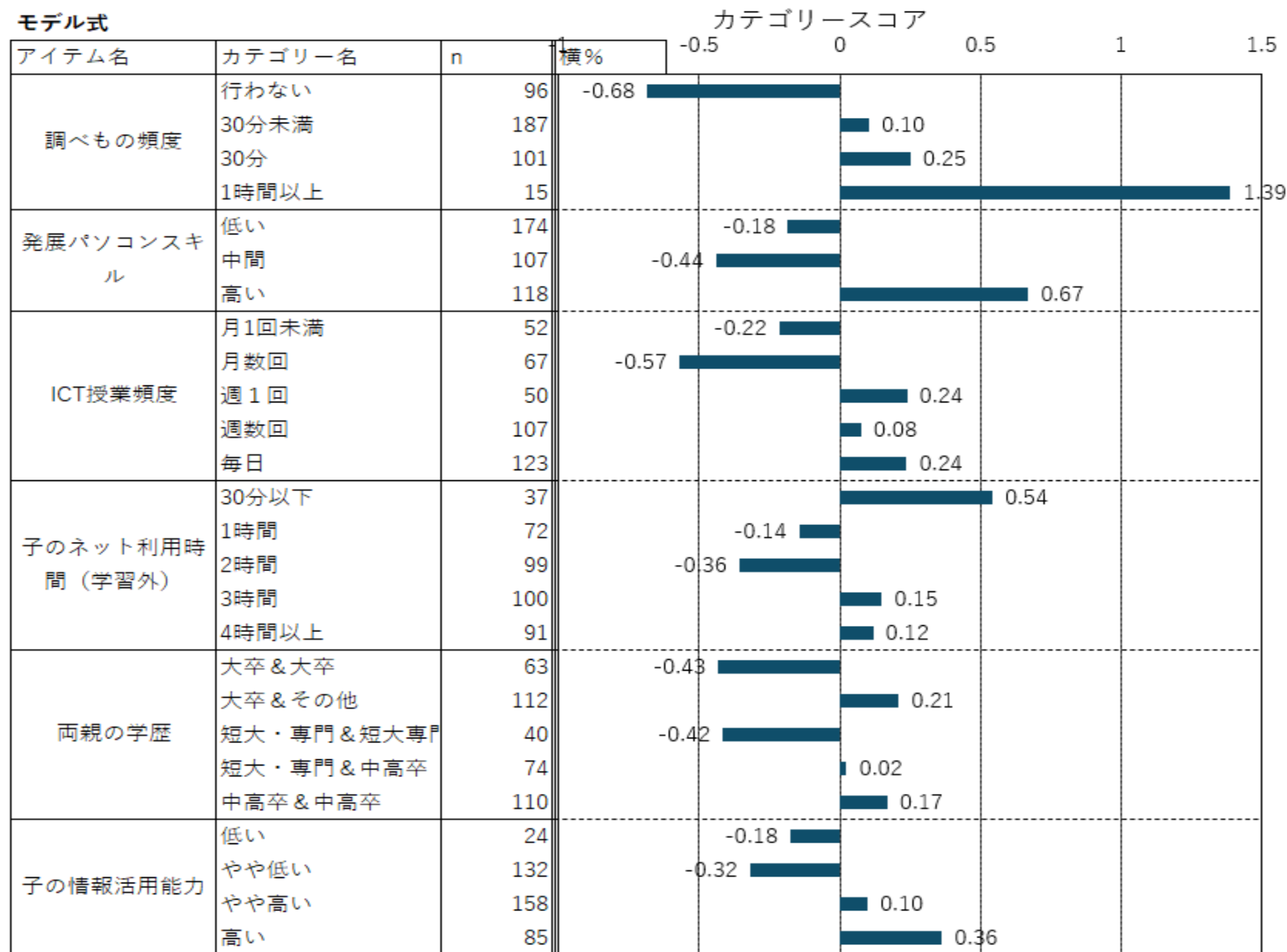
判別の中率：74.9%

相関比： $\eta^2 = 0.17$



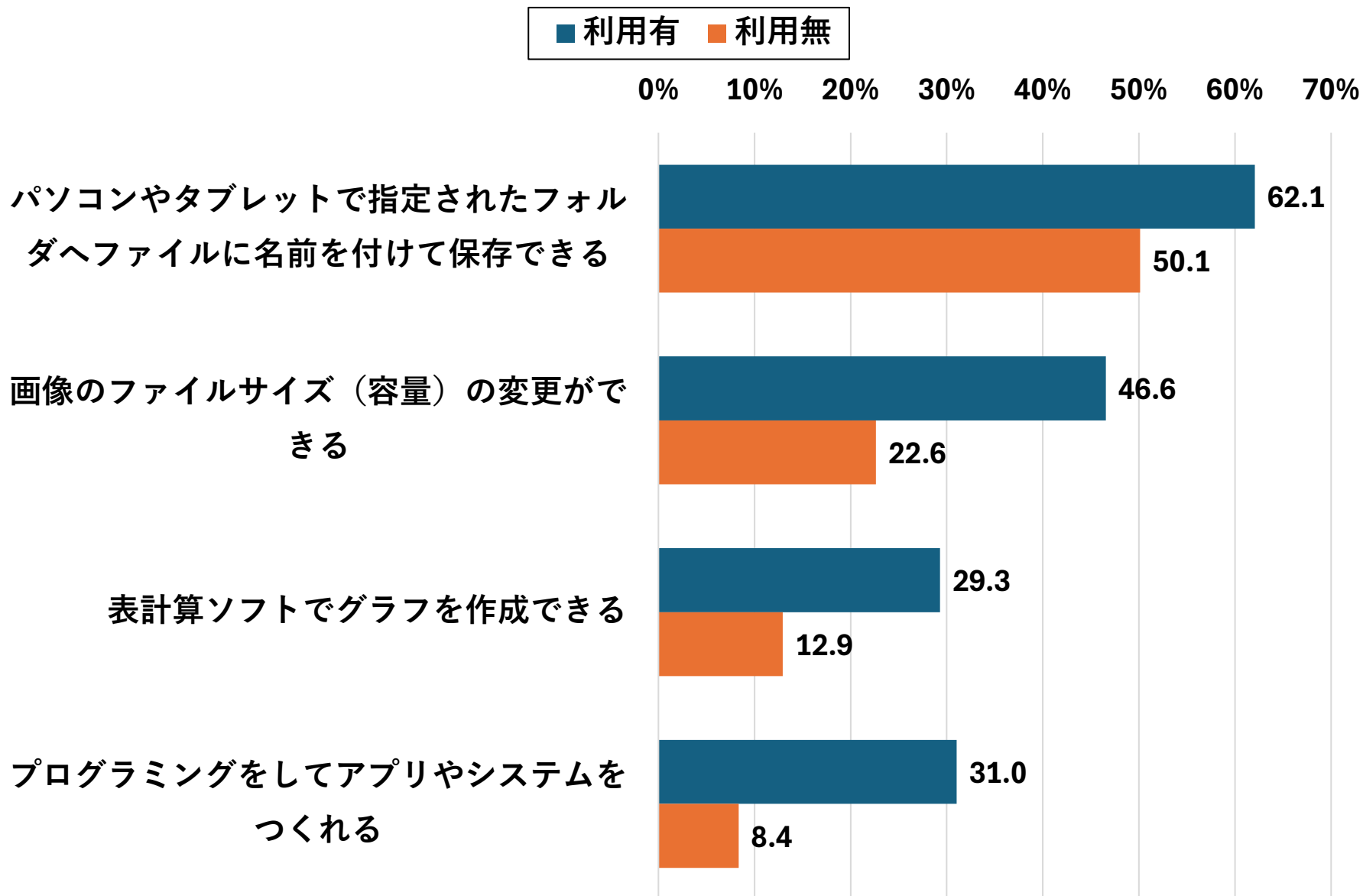
アイテム名	レンジ	偏相関係数
調べものの頻度	2.07 1位	0.19 1位
発展パソコンスキル	1.11 2位	0.19 2位
ICT授業頻度	0.81 5位	0.13 3位
子のネット利用時間（学習外）	0.90 3位	0.12 4位
両親の学歴	0.64 8位	0.11 5位
子の情報活用能力	0.68 7位	0.11 6位
都市規模	0.61 9位	0.11 7位
子のネット利用時間（学習）	0.56 10位	0.09 8位
学校の成績	0.82 4位	0.09 9位
親のネット利用時間	0.50 11位	0.09 10位
新しいものの好き	0.77 6位	0.08 11位
子どもの性別	0.31 12位	0.07 12位
応用スマホスキル	0.27 13位	0.04 13位
親の生成AI利用	0.17 14位	0.02 14位

2群：未利用>>=<<1群：利用



2群：未利用>>=<<1群：利用

都市規模	政令・特別区	109		0.10	
	20万人以上	105		0.24	
	10万人以上	75		0.06	
	10万人未満	110	-0.37		
子のネット利用時間（学習）	ない	83		0.28	
	30分以内	121		0.05	
	30分	64		0.10	
	1時間以上	131	-0.28		
学校の成績	上	26	-0.56		
	やや上	73		0.22	
	中	144	-0.02		
	やや下	89		0.07	
	下	45	-0.23		
	答えたくない	22		0.26	
親のネット利用時間	1時間未満	57	-0.02		
	1時間	110		0.11	
	2時間	116		0.20	
	3時間以上	116	-0.29		
新しいもの好き	そう思う	72		0.08	
	ややそう思う	185		0.03	
	あまりそう思わない	119		0.04	
	思わない	23	-0.69		
子どもの性別	男子	208		0.15	
	女子	191	-0.16		
応用スマホスキル	低い	62		0.18	
	中間	161	-0.10		
	高い	176		0.02	
親の生成AI利用	なし	361	-0.02		
	あり	38		0.16	



調べものが多く、高スキル（パソコン）生徒が利用

利用生徒の特性

サイト・動画
で調べもの

頻度が多い

発展パソコン
スキル

スキルが高い

関係が低い変数

親の生成AIの
利用応用スマホス
キル

性別

新しいもの好
き親のネット利
用時間

学校の成績

- ・スマホスキルではなく、パソコンスキルが影響
- ・サービス開始時に見られる「イノベータ」との関係は低い
- ・親との関係（属性・ネット関連）は低い

親と子両方利用しているは2%

■ 親子未利用 ■ 子だけ利用 ■ 親だけ利用 ■ 親と子ともに利用

0% 20% 40% 60% 80% 100%

小1～小3(n=418)

91

1 7 0

小4～小6(n=433)

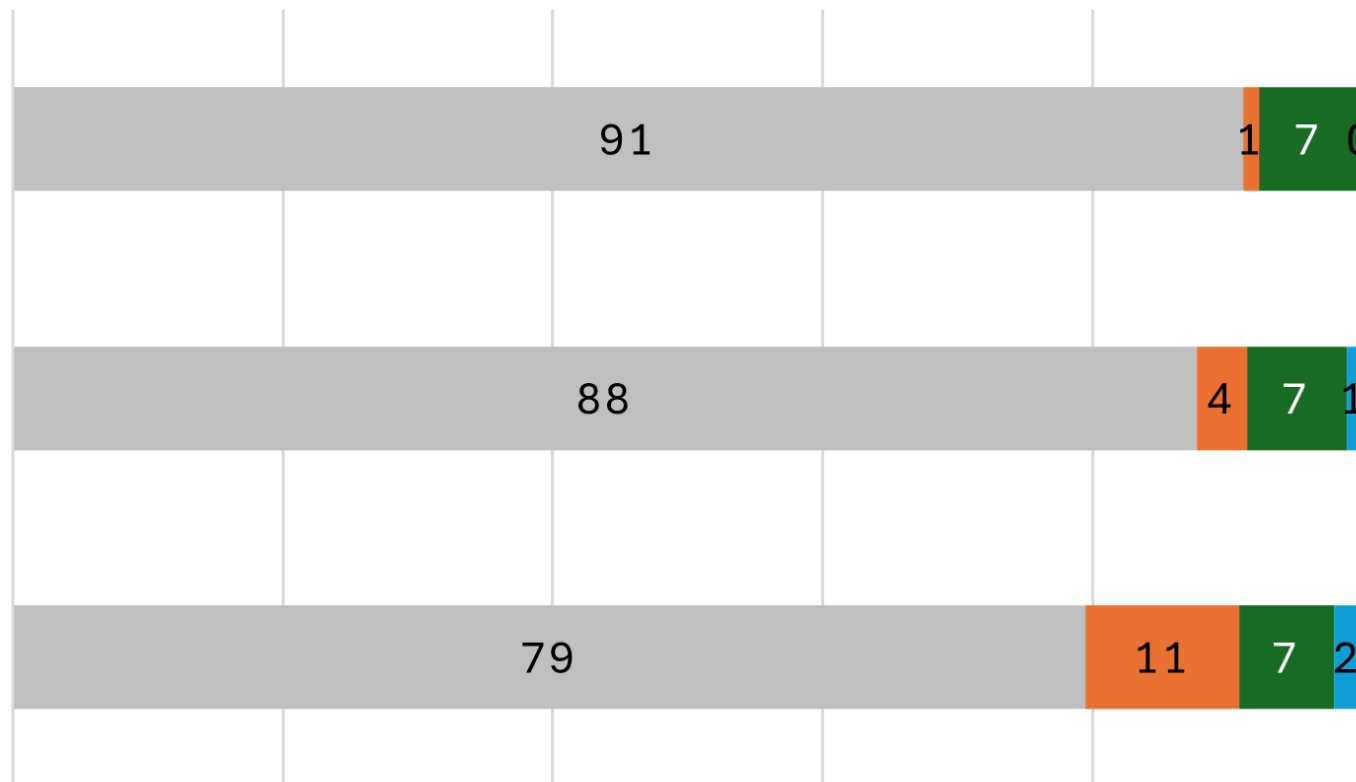
88

4 7 1

中1～中3(n=429)

79

11 7 2



- ◆自由で独立した立場から、モバイルICTがもたらす「光」と「影」の両面を広く解明するために2004年に設立
- ◆モバイル・コミュニケーションの現在および将来への社会・文化的影響を研究・分析して成果を発信

【主な研究テーマ】

経年変化を把握するため2010年から毎年実施しているモバイル動向調査(基礎調査)に加え、時流に合わせた個別調査を実施

光の伸張

モバイル動向(基礎調査)

<経年変化:2010年~>

ニューノーマル

子どものICT

スマホ利用者意識調査

SNS

影の縮小

健康とICT

シニアのICT

防災・減災のICT

情報発信

【研究成果の発信】

<モバイル社会白書2024>

データで読み解くモバイル利用トレンド2024-2025

データで読み解く
モバイル利用トレンド
2024-2025

株式会社NTTコムモバイル社会研究所

(書籍・電子書籍)

<モバイル社会研究所HP>

<https://www.moba-ken.jp>



(レポート発表)

<各種学会発表>

メディア掲載・データ引用・意見交換会等